

初の
伊勢公演!

日本を代表するピアニスト花房姉妹による
2台ピアノ、連弾、ソロの華麗な演奏をお楽しみください。

花房晴美&花房真美 ピアノデュオコンサート

©福本太郎

2017年 **7/9** (日) 開場 13:30
開演 14:00

シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢
(伊勢市観光文化会館)

チケット (全席指定・税込) ■一般 1,500円/一般ペア 2,000円
■高校生以下 500円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

※本コンサートは(公財)三井住友海上文化財団の助成により低料金に設定しております。

プログラム

- <2台ピアノ>
モーツァルト=グリーグ編:ピアノ・ソナタハ長調 K.545
ラヴェル:ポレロ
- <連弾>
J.シュトラウス2世:ワルツ「美しき青きドナウ」Op.314
- <独奏:花房晴美>
ドビュッシー:ベルガマスク組曲より 第3曲「月の光」
ショパン:幻想即興曲 嬰ハ短調 Op.66 ほか

※プログラムは変更になる場合がございます。

チケットのお取扱い チケット発売開始:2017年5月9日(火)

【平日 午前9:00~17:15】

●伊勢市教育委員会事務局
文化振興課(小俣総合支所) ……0596-22-7885

【午前9:00~】

●シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢 … 0596-28-5105

【午前10:00~】

●エムズネット 三重県文化会館WEBチケットサービス
<https://www3.center-mie.or.jp/tickets/>

●チケットぴあ(Pコード330-362)/0570-02-9999



©武藤 章

花房 晴美(ピアノ)
Harumi Hanafusa, Piano

“巨匠ピアニスト名鑑のHの項に、クララ・ハスキル、ウラディーミル・ホロヴィッツに並んで、いずれ花房晴美の名が刻まれるであろう。” —ハイファイステレオ誌

華麗な演奏が魅力の、日本を代表するピアニストの一人。国際的にも高く評価されている。

桐朋学園高校を首席で卒業後、パリ国立音楽院で学ぶ。エリーザベト王妃国際コンクール他、数々の国際コンクールに入賞。国内でのリサイタルの他、NHK交響樂團をはじめとする日本の主要オーケストラとの共演も数多い。最新CDは日本アコースティックレコーズより「フランス・ピアノ作品集 ～花房晴美ライブ・シリーズⅡ」があり、レコード芸術で特選盤に選ばれる。

国外での活動も活発で、2011年1月にはニューヨークカーネギー・ホールでニューヨークデビュー公演を行い、2013年3月にはマイケル・シンメル芸術センター（ニューヨーク）にて、「西村朗：ピアノ協奏曲＜シャーマン＞」をアメリカで初演し、大きな話題を呼んだ。

2010年からシリーズ・パリ音楽のアトリエをスタートさせ、今日まで13回続いており、第14回は日本デビュー40周年のリサイタルを10月13日（金）に予定している。



©福本太郎

花房 真美(ピアノ)
Mami Hanafusa, Piano

国立音楽大学付属高校、国立音楽大学を経て、同大学大学院修士課程修了。

1982年草月ホールのリサイタルを皮切りに数多くの演奏会に出演、群馬交響樂團との協奏曲や室内楽の分野でも活躍、多くのコンクール審査員を務めるなど幅広い活動を行っている。

1992年から実姉花房晴美と「花房シスターズ・ピアノデュオ」の本格的な活動をスタートさせ、全国で数多くのデュオの演奏会を行い、東京都交響樂團、新星日本交響樂團、神奈川フィル、仙台フィル、大阪センチュリー交響樂團、九州交響樂團などのオーケストラとも共演。

2011年は王子ホールにてソロ・リサイタルを行い、絶賛を博した。

2012年、13年には花房晴美 室内楽シリーズにて、フランク、オーギュスタ・オルメス、ミヨー作曲の珍しい連弾、2台ピアノ作品を演奏した。

録音は、「ア・グレイスフル・フレーム」をフォンテックよりリリースしている。

現在、昭和音楽大学、同大学院、同短期大学部講師。



■コンサートチューナーについて

ピアノのあるコンサートの舞台では、絶対に欠かすことの出来ない存在です。

本公演のためにピアノ2台を調律するのは、ヤマハアーティストサービス東京の水谷浩章さんです。

水谷さんは、国内の数多くのコンサート会場でコンサートチューナーとして活躍されており、本公演の花房姉妹のお二人をはじめ、国内外の有名なトップアーティストの皆さんを支えています。

■花房晴美氏コメント

今から4年前、ニューヨークのヤマハアーティストサービスで水谷さんと出会いました。ピアノを調律してくださる時の、彼の誠実なお人柄と音作りのセンスに惹かれ、一緒にコンサートを作り上げています。

ピアニストは自分の楽器を持ち運ばませんので、「今日はどのようなピアノと出会うのか」といつも不安がつきまといます。そのような状況の中で、会場のピアノの個性とピアニストの個性をつなぎ合わせてくれるのが調律師の役割なのです。水谷さんは私の表現したい音・音楽を言葉で表しきれない部分まで理解して下さり、それを目の前の楽器から引き出そうと最大限の努力をしてくださいます。